

1 研究主題

「わかる・できる喜び」を味わわせる授業の創造
 — 基礎的・基本的内容の定着と自ら学ぶ力を育てる指導の在り方の研究 —

2 研究主題設定の理由

本校では、平成15年度から「生きる力」の育成を目指した研究に取り組み、特に「確かな学力の育成」に焦点を絞り、各教科や総合的な学習の時間の指導や評価の在り方を中心に研究を進めてきた。その中で、基礎的・基本的な内容の確実な定着を目指した「授業の充実」を図ることにより、生徒が積極的に学習に取り組む、基礎的・基本的事項を身につけるとともに、「わかる・できる喜び」を味わうことで、自ら主体的に学ぶ態度や課題を解決する能力を育成できるのではないかと考えた。

3 研修の全体構想

学校教育目標	「生命に深くこだまする明和中の生徒を育てる」 — 国際社会に生きる日本人としての自覚をもち、心身ともに健康で、 社会性や創造性に富み、主体的に生きていく心豊かな生徒を育てる。 —
--------	---



重点課題	(1) 心の教育の充実 (2) 確かな学力の育成 (3) 生徒指導の充実 (4) 特色ある学校づくりの推進
------	--



研究主題に関する研修	① 生徒の実態の把握と全校態勢の確立 ・ 学力向上委員会の組織化と定例化 ・ 各種評価の実施と分析・改善策の検討（学力、学習状況、意識、生活実態） ② 授業の充実 ・ 基礎的・基本的な内容の確実な定着（定着の場の設定、宿題の工夫） ・ 生徒が自ら考える授業の工夫（校内研究授業の充実） ③ 基本的な学習習慣の育成 ・ 授業の基本的な躰の定着 ・ 学業指導の充実（教科学習の仕方、家庭学習の習慣化、テスト勉強の仕方） ・ 学業相談の実施・充実 ④ 個に応じた指導の充実 ・ 少人数指導、TT指導の充実、選択教科の指導の充実 ・ 生徒の特性に応じた特別支援教育の研究・実践
一般的な研修	○ 生徒指導に関する研修 ○ 特別支援教育に関する研修 ○ 人権同和教育に関する研修 ○ 教育相談に関する研修 ○ 健康教育に関する研修 ○ 教育経営に関する研修 ○ 情報教育に関する研修 ○ 教育評価に関する研修 ○ 教育課程に関する研修 ○ 総合的な学習の時間に関する研修

4 今年度の校内研修

月	日	曜	研修内容	外部講師の招へい	担当係
4	18	月	研究テーマ及び年間計画		研修
5	13	金	生徒指導についての共通理解		生徒指導
6	14	火	小・中連携部会		研修
7	21	木	カウンセリングについて	○	生徒指導
	22	金	人権同和教育について	○	人権同和教育
			学級経営について		特別活動
			NRTの分析方法の提示		諸検査
		情報教育・校内LANについて	○	情報教育	
8	1	月	健康教育について		保健指導
			特別支援教育について	○	特別支援教育
	19	金	NRTの分析の発表（各教科）		諸検査
			NRTの結果の有効活用について	○	諸検査
	30	火	2学期の学力向上についての取り組み		学業指導
校内の安全確保について				安全指導	
9	27	火	教科（研究授業を通して）		音楽科
10	11	火	教科（研究授業を通して）	○	英語科
	31	月	特別活動（研究授業を通して）	○	2年部，研修係
1	16	月	教育課程		教務主任
	23	月	道徳（研究授業を通して）	○ 予定	1年部，研修係
2	6	月	本年度の研修の成果と課題		研修係

5 研究主題に関する実践

(1) 生徒の実態の把握と全校態勢の確立

ア 学力向上委員会の組織化と定例化

- ・ 開催日 毎週月曜日の5校時に設定
- ・ 構成 校長，教頭，学年主任，教科代表 計7名
- ・ 内容 学力に関する現状と課題・解決策の協議，実践化に向けての具体策の検討
 - ・ 学力の実態について
 - ・ 学び方タイムの進め方について
 - ・ 家庭学習に関するアンケート分析
 - ・ 共通実践事項について 等

【成果】 ・ 様々な立場からの意見をもとに課題を明らかにし，実践への方向付ができた。
 ・ 学力に関する情報提供をすることで，学力向上に対する職員の意識も高まった。

イ 各種調査の実施と分析・改善策の検討（学力，学習状況，意識，生活実態）

- ① 基礎基本定着度調査の分析と各教科の具体策の検討（4月）
- ② 標準学力検査(NRT)の分析についての研修の実施（8月）
 応用教育研究所から講師を招き，評価情報の活用の仕方やNRTの分析の手法を学んだ。
- ③ 標準学力検査(NRT)の分析と具体策の検討（8月下旬）
 NRTの分析を基に，2学期からの学習指導に対する具体的な取り組みを各教科や学年毎に話し合った。

④ 生活実態調査

学び方タイムに、家庭での学習や生活の状況について調査した。課題を明らかにし、学級で指導するとともに、家庭の協力を要請したい。

- 【成果】
- ・ データを表にまとめたり、グラフ化したりすることで、学校や教科の学力の実態や課題が明確になり、教師の意識が高まり、改善策の検討をすることができた。
 - ・ NRTの有効な分析の仕方を共通理解することができた。また、分析結果を基に各教科や学年の課題を見だし、今後の対策を明確にして実践することにした。
 - ・ 分析のみで終わらず、更に学力向上についての課題解決を各教科や学年ごとに討議し、共通理解を図ることができた。

(2) 授業の充実

ア 基礎的・基本的な内容の確実な定着

各教科で学習過程に定着の場を位置付けたり、宿題の出し方について共通理解し実践化を図ったりしている。

イ 生徒が自ら考える授業の工夫（校内研究授業の充実）

全職員による研修を推進するために、研究授業の日は5時間授業にし、6校時に研究授業を設定し、放課後授業研究をした。

① 音楽科研究授業（1年）・・・9月27日実施

ア 題材「いろいろな音」

イ 指導目標

夏休みの課題として録音した音や、効果音など様々な音を聴かせ、自分の感じ方と仲間の感じ方を比較し把握させることで、一つの音についていろいろな感じ方があることを理解させる。



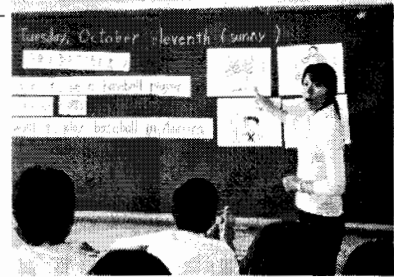
授業研究

② 英語科研究授業（2年）・・・10月11日実施

ア 題材「New Horizon English Course 2」

イ 指導目標

- ・ 職業名を発音できるようにする。
- ・ 自分の将来の夢と理由を書き、話すようにする。
- ・ お互いに夢や理由を理解し、積極的に会話できるようにする。



③ 学級活動研究授業（2年）・・・10月31日実施

ア 題材「学ぶための制度と機会」

イ 指導目標

- ・ 中学校卒業後の勉学の機会が多種多様にあることを理解させる。
- ・ 高等学校に関して調べてみたい内容をまとめさせる。



④ 経験者研修の充実

10年経験者研修2名、5年経験者研修1名の研究授業に指導者を招へい(6回)し、個別指導をして頂くことにより、授業の改善・充実を図った。

【成果】 授業者や担当教科の職員だけでなく、他教科の職員も参観することができ、より一層深まった授業研究ができた。また、指導者を招へいすることによって、研究の質が高まった。

(3) 基本的な学習習慣の育成

ア 授業の基本的な躰の定着

- ① 年度始めに、授業中の基本的な約束ごとについて共通理解を図り、実践に取り組んだ。
- ② 学力向上委員会で、まずは小さな共通実践が学力を高める第一歩であると考え、授業の始まりや終わりの躰について再確認等をし、共通理解・共通実践を図っている。

イ 学業指導の充実(教科学習の仕方、家庭学習の習慣化、テスト勉強の仕方)

① 家庭学習の習慣化

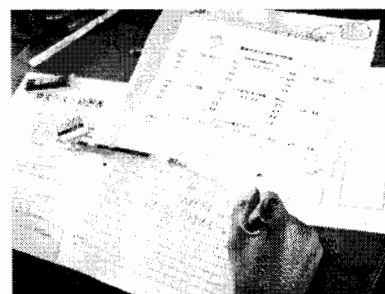
- ・ 毎日の家庭学習の目標(1・2年→2時間、3年→3時間)
- ・ 3点セットの提出(生活の記録、英語の宅習、漢字練習)

② 「学び方タイム」(年間4回)の設定と充実

定期テストの前に、総合的な学習の時間(4時間)と学級活動の時間(4時間)を組み合わせ、2時間続きの学業指導の時間「学び方タイム」を設定した。

- ・ 第1回(6月) テスト計画の立て方を学ぶ
- ・ 第2回(9月) 家庭学習の仕方を学ぶ
- ・ 第3回(11月) 予想問題づくり(1年)、教科の要点のまとめ(2年)、受験までの学習計画(3年)
- ・ 第4回(2月) 学習計画を立てる(予定)

【成果】 「学び方タイム」では、人の記憶のメカニズム等についても指導し、自分にあった効果的な学習の仕方について考えさせることができた。また、家庭学習の仕方やテスト計画の立て方等を具体的に指導し、実践化を図ることができた。



テスト計画の作成

ウ 学業相談の実施・充実

- ① 学び方タイムでの個別相談の実施
- ② 定期的な教育相談の実施 1学期(5時間)、2学期(5時間)
- ③ 数学科の習熟の程度に応じた指導のコース選択や選択教科のコース選択等においては、個別に相談を実施

(4) 個に応じた指導の充実

ア 少人数指導、TT指導の充実、選択教科の指導の充実

① 習熟度の程度に応じた指導(1～3年 数学)

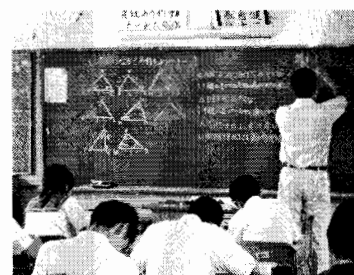
全時間2クラスを3コースに分け、3人の教師でそれぞれ指導

- ・ 1・2年 基礎基本コース(1コース)、総合コース(2コース)
- ・ 3年 基礎基本コース(1コース)、総合コース(1コース)、演習コース(1コース)

《コースの決め方》

生徒・保護者の希望をもとに決定するが、必要に応じて担当教師も相談を行う。途中でコースを替わることもできる。

② 少人数指導(2・3年 英語)



数学の授業

2クラスを均等に3コースに分け、3人の教師が別々に年間を通して指導

③ TT(ティームティーチング)

1年英語 各学級週2時間ずつ実施, 主・副に分担して指導

理科 実験を中心に実施 1年 各学級週2回

2年 各学級週1回

3年 各学級週2回

- 【成果】
- ・ 習熟の程度に応じた指導, 少人数指導等を実施し, 個に応じたきめ細かな指導ができるようになった。
 - ・ 生徒の習熟の程度に応じた指導を実施し, 生徒の学習に対する関心も深まり, 真剣に取り組む生徒が増えた。
 - ・ 理解不足の生徒に対して, 少ない人数で時間をかけて指導できるようになり, 授業への集中力や意欲が増してきた。
 - ・ 理解の早い生徒やコースは, 応用的な問題にも取り組んだ。
 - ・ 授業を二人の教師で指導するので, 机間指導や実験等でのきめ細かな指導ができるようになった。

イ 選択教科の充実

・ 1年 5コース(国・社・数・理・英)開設, 年間18時間実施, 各1教科選択

・ 2年 11コース(国・社・数・理・英, 音・美・体2・家・技)開設

週2コマ 年間68時間実施

国・社・数・理・英から1教科選択

音・美・体(2コース)・家・技から1教科選択

・ 3年 22コース(国2・社2・数2・理2・英2, 音2・美2・体4・家2・技2)開設

週4コマ 年間135時間実施

国・社・数・理・英から1教科選択×2コマ

音・美・体(2コース)・家・技から1教科選択×2コマ

ウ 授業時間外の個別指導の充実

始業前, 昼休み, 放課後等に随時個別の指導に当たっている。

エ 生徒の特性に応じた特別支援教育の研究・実践

8月の校内研修で, 外部講師を招いて, 特別支援教育に関する研修を実施した。

対象生徒の特定や指導の在り方について, 更に研修を深める必要がある。

(5) その他

ア 朝読書の実施 月・火・木・金曜日の8時15分~8時35分に実施

6 今後の課題

- ① 学力向上委員会の更なる機能化を図るために, 内容や運営の工夫が必要である。
- ② 職員研修の時だけの話し合いで終わらないようにするために, 教科や学年, 係会等で話し合いを進め, 共通理解事項が組織的に実践できるようにしたい。
- ③ 評価と指導の一体化を図りながら, 基礎基本の定着や生徒自ら課題に取り組ませるために, 日々の授業の更なる充実を図っていききたい。
- ④ 今年度の課題を早めにまとめ, 来年度に向けての研修計画に生かしたい。